

# 私立大学新入生の家計負担調査

2008年度

(抜粋)

2009年4月

東京私大教連

## は じ め に

本調査は2008年4月に首都圏の私立大学・短期大学（以下、私立大学）に入学した新入生の家計負担の状況をまとめたものです。

わが国の私立大学・短期大学は学生数で7割、学校数では8割を占め、高等教育における重要な役割を担っています。私立学校振興助成法では教育条件の改善、学費負担の軽減等のため「私立大学への経常費2分の1補助」の早期達成を目標として定めています。また、1975年7月の参議院文教委員会の附帯決議では「私立大学に対する国の補助」を「できるだけ速やかに2分の1とするよう努めること」とされています。しかし、私立大学の経常費に占める補助金の割合は、1980年度の29.5%をピークに減少し続けており、2007年度はわずか11.1%でしかありません。それどころか政府は、2007年度から5年間にわたり毎年1%ずつ削減する方針を決め、この3年間ですでに94億円以上もの削減を行っています。

国際的にも低い水準の高等教育予算のもとで、私立大学新入生の家庭からは、「子どもの進学に際し授業料を考えたとき、経済的な問題が立ちはだかります。子どもの合格力より親の経済力が大学進学を左右してしまいます。教育の機会均等の原則を実現する手立てを真に求めたいと思います」などの父母の声が数多く寄せられています。また、本調査結果からは父母と学生の教育費負担がもはや限界に達していることが読み取れ、一般補助を柱にした私大助成の増額とともに、無利子奨学金制度の拡充や授業料への直接助成制度の創設などによって、各家庭の経済的負担を軽減することが急務である現状が浮き彫りになっています。

私たちは、私立学校に在学する学生等の修学上における経済的負担の軽減や私立学校の健全な発達に資すること等を目的とした私学振興助成法の趣旨に立脚し、高等教育予算の増額と「高等教育漸進的無償化」条項の「留保撤回」、私大助成の増額をめざしています。

本調査にご協力いただいた新入生の保護者のみなさまに心から感謝するとともに、この調査結果が各方面で広く活用されることを強く望むものです。

2009年4月

東京私大教連中央執行委員会

**目 次**

**「私立大学新入生の家計負担調査」について**

I 調査の目的・経過・特徴	3
II 今回の調査の実施状況	4
1. 方法・時期・回収数    2. 調査の対象	
III 東京私大教連について	4
1. 組織名    2. 英文名    3. 連絡先    4. ホームページ    5. 組織概況	

**第1章 2008年度調査のエッセンス**

1 「受験から入学までの費用」は自宅外通学者で214万9461円	5
2 「入学の年にかかる費用」は304万円と高額。自宅外通学者の家庭では年収の3割を超える	7
3 「仕送り額（6月）」は、最低額を更新中。 仕送りから家賃を引いた生活費は10年前に比べ半減（1日…1200円）	9
4 奨学金を「希望する」と「申請した」が自宅外通学者で初めて7割台に 〈 授業料への直接助成制度を多くの家庭が待ち望む 〉	11
5 入学費用は5人に1人が「借入れ」で調達。借入額は160万円台に。 9割の家庭が入学費用を「重い」と感じている	13
◆切実な父母の声（アンケートの中から）	15

**第2章 「2008年度の家計負担調査」結果**

I 基本データの構成	19
II 家庭の状況と世帯の税込年収	22
A 家庭の状況    B 世帯の税込年収    C 教育費のかかる子どもの数	
III 受験時の支出	26
A 受験費用    B 受験回数    C 入学校以外の大学への支払い	
IV 入学時の住居費	30
V 毎月の仕送り額	32
VI 受験から入学までの費用	34
VII 「入学の年にかかる費用」と「税込年収に占める割合」	36
VIII 「入学費用の調達」と「借入れ額」	39
A 学費などの「入学に必要な費用」の調達    B 入学費用の借入れ額	
IX 「受験から入学までの費用」の負担感	42
X 奨学金について〈希望、希望者の申請状況〉	43
XI 授業料への直接助成制度	45

# 「私立大学新入生の家計負担調査」について

## I. 調査の目的・経過・特徴

### 1. 調査の目的

私立大学の問題を考える重要なデータとして、首都圏の私立大学に入学した新入生の家計負担の状況について明らかにすることを目的とした調査である。

### 2. 調査の経過

1. 最初の調査は1983年度で、「私立大学生の家庭」を対象として実施された。
2. 1985年度から調査の対象を「新入生の家庭」に限定した。今回の2008年度調査は、対象を新入生の家庭にしぼってから24回目となる。調査の結果は、1985年度から公表している。
3. これまでの調査を通じ、少しずつ調査票の設問を改善してきている。

### 3. 本調査の特徴

本調査は下記に紹介する調査とちがい、次の点に特徴がある。

1. 私立大学の新入生を対象とした調査であること。
2. 家計負担の状況を保護者（父母）の側から明らかにしていること。

### 参 考

よく知られている教育費調査に次のものがある。大学を対象とした調査は①と②だが、いずれも国公立大学を含むもので、回答者は主として大学生・大学院生である。

- ① 「学生生活調査」（文部科学省、隔年調査、対象は国公立の大学生と大学院生  
平成18年調査からは、日本学生支援機構に移管された）
- ② 「学生の消費生活に関する実態調査」（全国大学生生活協同組合連合会、毎年調査、対象は国公立の大学生と一部父母）
- ③ 「保護者の支出した教育費調査」（文部科学省、毎年調査、対象は公立の小・中学生、公私立の高校生の保護者）
- ④ ほかに総務省の「家計調査」、厚生労働省の「国民生活実態調査」などがある。

## II. 今回の調査の実施状況

### 1. 方法・時期・回収数

1. 依頼・回収とも郵送により、2008年5月～6月にかけて実施した。
2. 調査票は「私立大学新入生の家計負担についてのアンケート」を使用し、4,886件を回収した。有効回答は4,802件で98.3%であった。

### 2. 調査の対象

1. 2008年度に私立大学（短期大学を含む）に入学した新入生の家庭（保護者・父母）を対象とした。
2. 対象となった大学は、1都4県（東京、神奈川、埼玉、千葉、栃木）にある下記の16大学・短大である。

東京（10校）	工学院大学	中央大学	東京経済大学
	日本大学	日本大学短期大学部	
	武蔵野美術大学	明治大学	明治薬科大学
	和光大学	早稲田大学	
神奈川（1校）	麻布大学		
埼玉（1校）	獨協大学		
千葉（2校）	国際武道大学	東邦大学	
栃木（2校）	作新学院大学	作新学院大学女子短期大学部	

## III. 東京私大教連について

1. 組織名 トウキョウ シダイキョウレン 東京私大教連（フルネーム＝東京地区私立大学教職員組合連合）
2. 英文名 Tokyo Federation of Private University Faculty and Staff Unions
3. 連絡先 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場2-5-23 第1桂城ビル3階  
TEL 03(3208)8071 FAX 03(3208)0430  
E-Mail tsk@tfpu.or.jp
4. ホームページ <http://www.tfpu.or.jp>
5. 組織概況
  1. 1都9県（東京、千葉、埼玉、神奈川、群馬、茨城、栃木、山梨、長野、新潟）の短期大学を含む私立大学の教職員組合で構成する連合体。上部団体は日本私大教連（日本私立大学教職員組合連合）。
  2. 加盟組合数は2009年3月現在、67組合（55大学・26短大）、組織人員は約1万人。

# 第1章

## 2008年度調査のエッセンス

### 1 「受験から入学までの費用」は自宅外通学者で214万9461円

〈自宅外通学者・自宅通学者とも、受験から入学までの全ての費用が増加〉

・（ ）内は対前年度との比較

1. 「受験から入学までの費用」は、自宅外通学者は214万9461円で前年度比3万635円（+1.4%）増額、自宅通学者は150万361円で前年度比1万635円（+0.7%）増額した（表1）。
2. 「受験から入学までの費用」は、構成する全ての費目（受験費用、家賃、敷金・礼金、生活用品費、初年度納付金）で、自宅外通学者・自宅通学者とも増額した（表1・2、図1）。

〈「受験から入学までの費用」 初年度納付金（130万円）の負担重く〉

3. 2008（平成20）年度の初年度納付金の平均は、130万9061円である。「受験から入学までの費用」全体に占める初年度納付金の割合は、自宅外通学者では60.8%、自宅通学者では87.2%であり、学費負担の割合が高い（表1・3）。

表1 受験から入学までの費用（住居別）

費用の内訳	自宅外通学			自宅通学		
	額	前年度増減額	同増減率	額	前年度増減額	同増減率
受験費用	240,200 <sup>円</sup>	8,300 <sup>円</sup>	3.6 <sup>%</sup>	191,300 <sup>円</sup>	300 <sup>円</sup>	0.2 <sup>%</sup>
家賃	59,700	500	0.8			
敷金・礼金	208,800	300	0.1			
生活用品費	331,700	11,200	3.5			
初年度納付金（*）	1,309,061	10,335	0.8	1,309,061	10,335	0.8
合計	2,149,461	30,635	1.4	1,500,361	10,635	0.7

\* 初年度納付金は文部科学省「平成20年度私立大学入学者に係る初年度学生納付金平均額（定員1人当たり）」による。

表2 「費目別の対前年度増減額」の推移（自宅外通学者）

費目	02	03	04	05	06	07	08
受験費用 (自宅通学者)	3,200 (100)	-9,800 (-1,100)	6,900 (-200)	3,600 (9,800)	-8,200 (-1,600)	-3,700 (8,100)	8,300 (300)
家賃	400	100	1,100	-2,600	1,400	-900	500
敷金・礼金	2,100	2,600	-5,700	-23,800	3,900	-3,500	300
生活用品費	-15,400	400	22,300	64,000	3,400	-9,500	11,200
私大初年度 納付金	3,288	1,280	9,145	3,762	2,364	-9,594	10,335
増減額合計	-6,412	-5,420	33,745	44,962	2,864	-27,194	30,635

図1 費目別の対前年度増減額（自宅外通学者）

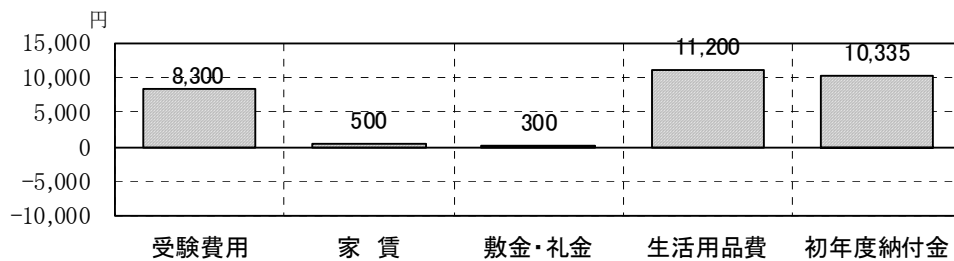


表3 「受験から入学までの費用」の構成比（自宅外通学者）

年度	受験費用		私大初年度納付金		入学時の住居費		合計	
	額	構成比	額	構成比	額	構成比	額	増減率
06	235,600	10.9	1,308,320	61.0	602,100	28.1	2,146,020	0.1
07	231,900	10.9	1,298,726	61.5	588,200	27.6	2,118,826	-0.8
08	240,200	11.3	1,309,061	60.8	600,200	27.9	2,149,461	1.4

## 2 「入学の年にかかる費用」は304万円と高額。自宅外通学者の家庭では年収の3割を超える

### 〈「入学の年にかかる費用」は「税込収入」の33.3%（自宅外通学者）〉

・（ ）内は対前年度との比較

1. 自宅外通学者の「入学の年にかかる費用」は、304万6761円であり、前年と比べ2万4835円（+0.8%）増額した。また、父母・学生の裁量でいざばん出費をおさえることができる費目である「仕送り額(4月～12月)」は89万7300円(-5800円)で前年度より減少した。費用の前年度比較では、「受験費用」(+8300円)、「住居費」(+1万2000円)、「初年度納付金」(+1万335円)、仕送り額(-5800円)である（表4）。
2. 自宅外通学者世帯の「税込収入」915万9000円に占める「入学の年にかかる費用」の割合は、33.3%で年収の3分の1を占め、家計に占める負担の大きさを示している（図2・3、表4）。

### 〈世帯の税込年収は2002年度以降1000万円を割る。有所得者数の平均は1.7人〉

3. 世帯の「税込年収」は、全体平均では922万9000円（-2.5%）で、これを住居別にみると自宅外通学者で915万9000円(-4.7%)、自宅通学者で929万8000円(-0.5%)である。世帯の「税込年収」の推移をみると、2002年度以降は1000万円を割り続けている（図4、表6）。世帯の「税込年収」の有所得者数平均は、1.7人である。

図2 入学の年にかかる費用（自宅外通学者）

受験から私立大学 入学までの費用 214万9461円	+	仕送り額 (4月～12月) 89万7300円	=	入学の年にか か か る 費 用 304万6761円
----------------------------------	---	------------------------------	---	--

・「仕送り額」の4～5月分は「5月の仕送り額」（113,700円）を、6～12月分は「6月の仕送り額」（95,700円）をもとに算出。

図3 税込年収に占める「入学の年にかかる費用」の割合（自宅外通学者）

入学の年にかかる費用 304万6761円	=	税込年収に 占める割合 33.3%
平均税込年収（自宅外） 915万9000円		

表4 自宅外通学者の「入学の年にかかる費用」

	受験費用	住居費	私大初年度 納付金	仕送り額 (4月～12月)	合計	前年度比
平均	240,200 <sup>円</sup>	600,200 <sup>円</sup>	1,309,061 <sup>円</sup>	897,300 <sup>円</sup>	3,046,761 <sup>円</sup>	%
増減額	8,300	12,000	10,335	-5,800	24,835	0.8

表5 「入学の年にかかる費用」の推移（住居別）

住居別	02	03	04	05	06	07	07
自宅外	3,126,669 <sup>円</sup>	3,083,649 <sup>円</sup>	3,085,994 <sup>円</sup>	3,101,156 <sup>円</sup>	3,072,420 <sup>円</sup>	3,021,926 <sup>円</sup>	3,046,761 <sup>円</sup>
(増減比)	-1.3%	-1.4%	0.1%	0.5%	-0.9%	-1.6%	0.8%
自宅	1,467,769 <sup>円</sup>	1,460,669 <sup>円</sup>	1,476,894 <sup>円</sup>	1,490,456 <sup>円</sup>	1,491,220 <sup>円</sup>	1,489,726 <sup>円</sup>	1,500,361 <sup>円</sup>
(増減比)	0.2%	-0.5%	0.6%	0.9%	0.1%	-0.1%	0.7%

・自宅通学者については、毎月の生活費や小遣いなどを調査していないため「受験から入学までの費用」をそのまま使用している。

図4 「世帯の税込年収」の推移（全体平均）

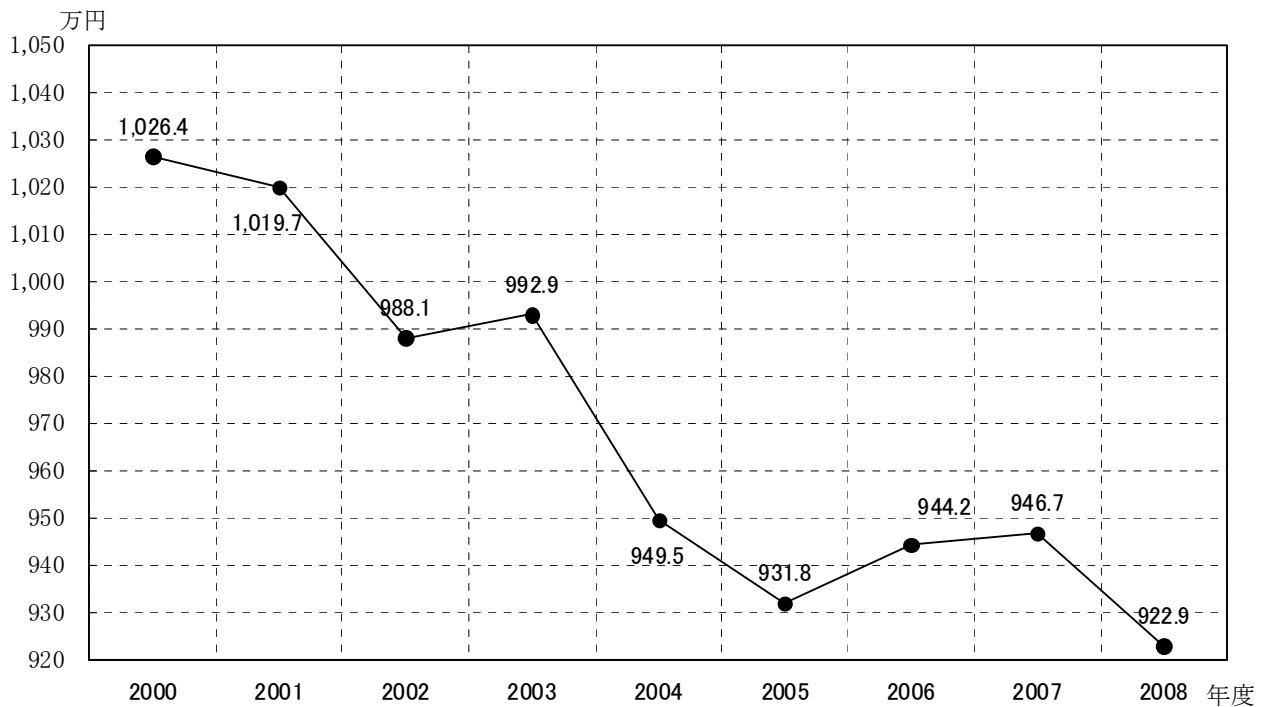


表6 「税込年収」と「対前年度増減比」の推移（全体／住居別）

住居別		2000	01	02	03	04	05	06	07	08
全体	年収	1,026.4 <sup>万円</sup>	1,019.7 <sup>万円</sup>	988.1 <sup>万円</sup>	992.9 <sup>万円</sup>	949.5 <sup>万円</sup>	931.8 <sup>万円</sup>	944.2 <sup>万円</sup>	946.7 <sup>万円</sup>	922.9 <sup>万円</sup>
	増減比	2.1%	-0.7%	-3.1%	0.5%	-4.4%	-1.9%	1.3%	0.3%	-2.5%
自宅外	年収	1,028.6 <sup>万円</sup>	1,009.6 <sup>万円</sup>	981.3 <sup>万円</sup>	1000.1 <sup>万円</sup>	949.1 <sup>万円</sup>	967.4 <sup>万円</sup>	947.2 <sup>万円</sup>	960.9 <sup>万円</sup>	915.9 <sup>万円</sup>
	増減比	2.5%	-1.8%	-2.8%	1.9%	-5.1%	1.9%	-2.1%	1.4%	-4.7%
自宅	年収	1,021.6 <sup>万円</sup>	1,029.1 <sup>万円</sup>	995.5 <sup>万円</sup>	988 <sup>万円</sup>	949.3 <sup>万円</sup>	901.0 <sup>万円</sup>	941.9 <sup>万円</sup>	934.3 <sup>万円</sup>	929.8 <sup>万円</sup>
	増減比	-1.5%	-0.1%	-3.3%	-0.7%	-3.9%	-5.1%	4.5%	-0.8%	-0.5%

### 3 「仕送り額（6月）」は、最低額を更新中。 仕送りから家賃を引いた生活費は10年前に比べ半減（1日…1200円）

1. 仕送り額は、入学直後の新生活や教材の準備で費用がかさむ「5月」が11万3700円、出費が落ち着く「6月」が9万5700円といずれも減少した。「6月」の仕送り額は、前年の9万5900円をさらに下回り過去最低額となった。「6月」の仕送り額を過去最高だった1994年の12万4900円と比較すると、13年間に2割以上減少している。（図5、表7）。
2. 「家賃」の平均は5万9700円で、「仕送り額（6月）」9万5900円に占める「家賃」は62.4%となり過去最高の割合となった（表8、図6）。
3. 「仕送り額」から「家賃」をのぞいた生活費は13年連続で減少し、最低額を更新しつづけ10年前（6万4100円）に比べ半減し3万6000円となった。この額から一日あたりの生活費を算出すると、1200円（3万6000円÷30日）であり、最低額を更新しつづけている（図7）。

図5 「6月の仕送り額（平均仕送り額）」の推移

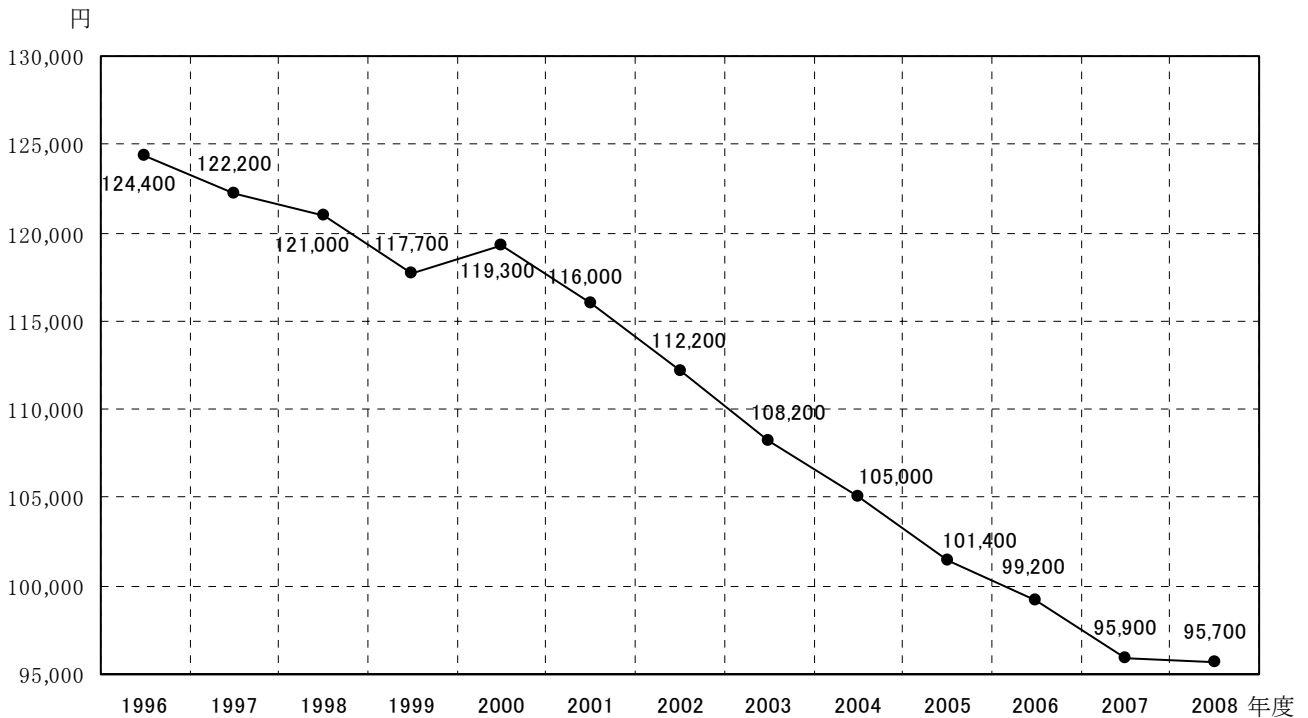


表7 出費がかさむ「5月の仕送り額」の推移

97	98	99	00	01	02	03	04	05	06	07	08
147,800	147,500	143,600	145,100	139,400	135,700	130,900	126,400	124,100	116,000	115,900	113,700

表8 「毎月の家賃」の推移

97	98	99	00	01	02	03	04	05	06	07	08
56,400	56,900	57,200	59,600	59,700	60,100	60,200	61,300	58,700	60,100	59,200	59,700

図6 「仕送り額（6月）」に占める「家賃の割合」の推移

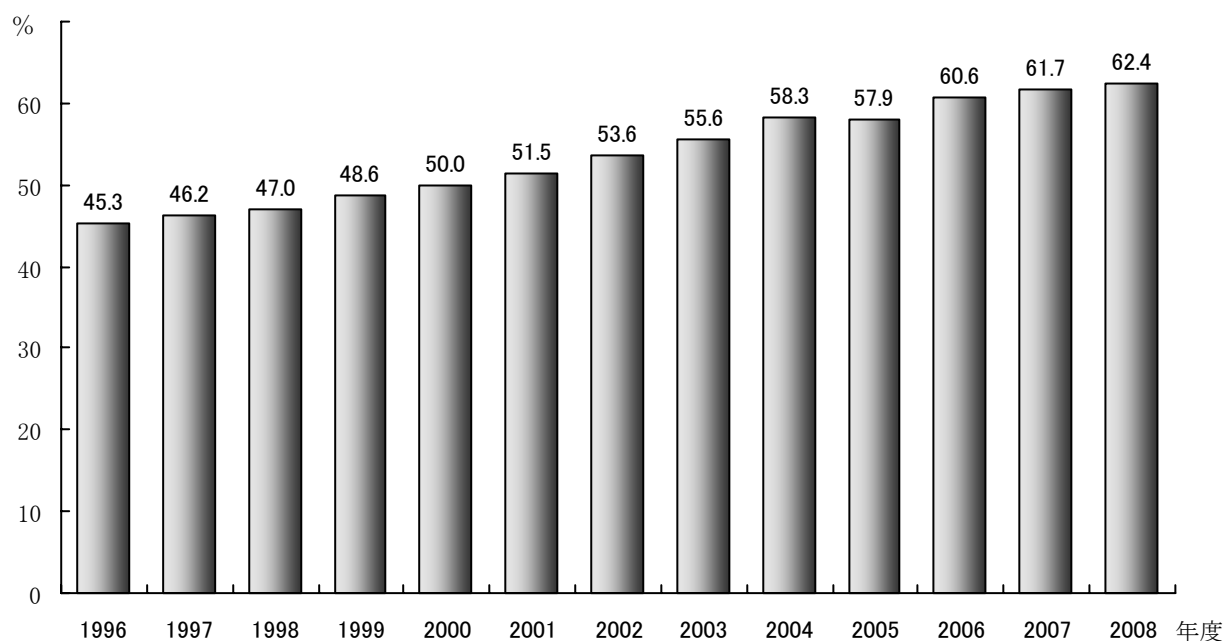
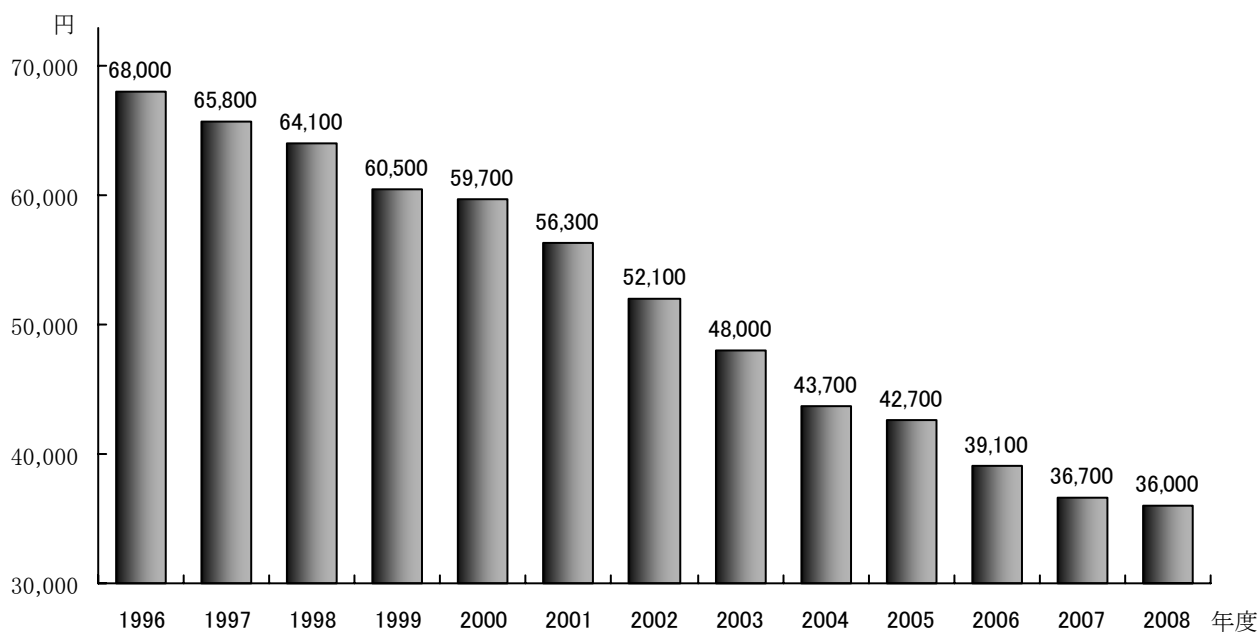


図7 「仕送り額（6月）」から「家賃」を除いた生活費の推移



\*2008年度の1日あたりの生活費は、1200円（3万6000円÷30日）である。

## 4 奨学金を「希望する」と「申請した」が自宅外通学で初めて7割台に く 授業料への直接助成制度を多くの家庭が待ち望む く

### く 全体でも「希望する」「申請した」は調査開始以来、過去最高 く

1. 日本学生支援機構（旧日本育英会）を含む奨学金は、「希望する」と希望者のうち「申請した」が全体平均でもに6割を超え、調査以来、過去最高になった。住居別では、「自宅外通学者」で「希望する」と「申請した」が、初めて7割台に達した。（表9）。
2. 奨学金を「希望する」は64.0%で2000年代に入ってから6割の水準に、希望者のうち「申請した」は62.9%と2年連続で6割を超えた。（「希望」は1992年から、「申請」は1985年から調査を実施）
3. 日本学生支援機構がまとめた奨学金受給率合計は29.9%（2007年度実績）である。その内訳は私立大学生で28.0%であり、国公立大学生の36.7%と比べても低い。先進国のなかで給費制奨学金がないのは日本だけである。
4. 授業料に対する国の「直接助成制度（\*）」を「必要とする」との回答は全体で87.7%であり、新入生家庭の多くがこの制度を希望している（図8・表11）。

全国の自治体では私立高校生への授業料補助が行われている。

（\*直接助成制度…国が家庭に直接交付する返済の必要のない授業料の補助制度。現在この制度はない）

表9 「奨学金の希望」と「希望者の申請状況」の推移（全体／住居別）

年度	奨学金を「希望する」			希望者で「申請している」		
	全 体	自 宅 外	自 宅	全 体	自 宅 外	自 宅
96	56.8 %	64.0 %	49.5 %	40.1 %	48.9 %	29.1 %
97	55.5	63.3	47.9	41.3	50.3	29.2
98	57.5	63.4	51.2	38.7	47.1	28.0
99	59.6	65.7	52.6	44.4	52.1	33.9
00	61.9	68.1	55.2	48.7	56.1	38.6
01	61.6	67.3	55.7	48.7	57.5	37.3
02	62.1	68.6	55.5	49.3	56.9	40.3
03	61.9	69.0	55.7	48.8	56.7	40.0
04	60.4	65.7	55.8	53.8	60.5	46.8
05	59.4	66.7	52.9	54.2	60.3	47.2
06	61.1	67.8	55.6	59.3	67.8	50.7
07	63.2	69.0	57.6	62.0	68.6	54.2
08	64.0	71.0	58.0	62.9	73.6	53.6

表10 奨学金希望者の申請状況「申請している」の推移（税込年収別）

年度	500万円未満	500～600万	600～700万	700～800万	800～900万	900～1,000万	1,000～1,100万	1,100～1,300万	1,300～1,500万	1,500～1,700万	1,700～1,900万	1,900～以上
06	79.7	72.7	67.0	64.7	61.7	56.1	46.0	44.7	32.5	20.4	22.5	31.0
07	83.1	72.6	76.1	71.0	63.6	58.0	50.6	49.0	37.6	30.5	33.3	15.8
08	80.7	77.1	74.9	69.3	65.1	60.7	52.2	49.0	40.0	28.2	26.6	23.3

図8 「授業料への直接助成制度」の必要性（全体／住居別、費用の調達別）

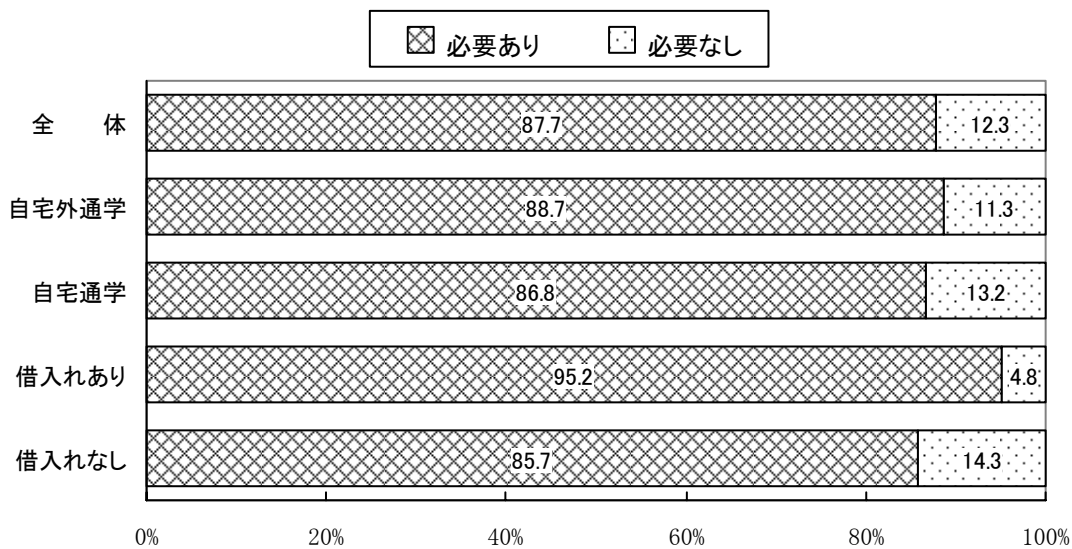


表11 授業料への直接助成制度「必要あり」の推移（全体／住居別、費用の調達別、学部学科別）

年度	全体平均	自宅外通学	自宅通学	借入れあり	借入れなし	文科系	理科系	医科歯科系	その他
03	86.7	87.2	86.5	93.3	84.8	86.2	87.6	81.3	88.4
04	86.6	86.3	86.9	92.0	80.4	86.0	87.3	82.4	89.2
05	86.0	85.2	86.4	93.6	83.6	85.7	85.5	88.9	87.9
06	86.9	86.5	87.2	91.1	84.8	86.6	87.2	76.8	91.1
07	87.2	87.0	87.5	93.6	83.6	86.9	97.2	—	89.1
08	87.7	88.7	86.8	95.2	85.7	87.0	87.9	84.4	91.6

## 5 入学費用は5人に1人が「借入れ」で調達。借入額は160万円台に。 9割の家庭が入学費用を「重い」と感じている

1. 入学費用を「借入れ」した世帯は19.9%で、5人に1人の割合である。住居別で見ると「自宅外通学者」が「自宅通学者」に比べ「借入れあり」が多い傾向は変わらない(表12)。
2. 「借入額」の平均は164万2000円で、前回と比べて6000円の減額である。「自宅外通学者」の「借入額」は184万円で、「自宅通学者」と比べ43万5000円多く、「自宅外通学者」での家計負担の大きさがうかがえる。(表12)。
3. 受験から入学までの費用の「負担感」は、全体平均で9割が『重い』(「たいへん重い」+「重い」と感じおり、新入生を入学させた家庭の負担の大きさを示している。その中でも「借入れあり」(入学費用を借入れでまかになった家庭)では『重い』が99.5%となっている。住居別では「自宅外通学者」の93.0%が『重い』と感じている(表13、表14)。

表12 「借入れあり」と「借入額」の推移(全体/住居別)

年度	全体平均		自宅外通学		自宅通学	
	借入れあり %	借入額 万円	借入れあり %	借入額 万円	借入れあり %	借入額 万円
00	24.0	160.1	27.2	180.6	20.5	130.3
01	23.5	158.5	26.3	180.1	20.7	129.6
02	22.5	160.9	25.4	182.2	19.8	133.9
03	21.9	161.5	25.8	188.8	18.4	128.8
04	22.1	159.8	25.2	182.5	19.3	134.0
05	21.9	166.4	25.5	193.1	18.7	134.5
06	27.7	174.3	30.8	207.0	25.2	138.9
07	19.4	164.8	23.3	185.1	15.6	134.7
08	19.9	164.2	23.5	184.0	16.7	140.5

表13 「受験から入学までの費用」の「負担感」の推移（全体平均）

負担感	02	03	04	05	06	07	08
①たいへん重い	39.3 %	40.4 %	40.4 %	40.1 %	38.8 %	40.9 %	40.5 %
②重　　い	51.3	50.1	50.3	50.1	50.9	49.8	50.8
③それほど重くない	8.6	8.5	8.3	8.9	9.2	8.2	7.5
④重　く　な　い	0.8	1.0	1.0	0.9	1.1	1.1	1.2
重　　い (①+②)	90.6	90.5	90.7	90.2	89.7	90.7	91.3
重くない (③+④)	9.4	9.5	9.3	9.8	10.3	9.3	8.7
合　　計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表14 「受験から入学までの費用」の「負担感」（資金の調達別、住居別）

負担感	借入れあり	借入れなし	自　　宅	自　宅　外
①たいへん重い	65.2 %	34.3 %	37.2 %	44.6 %
②重　　い	34.3	55.0	52.8	48.4
③それほど重くない	0.4	9.3	8.7	6.0
④重　く　な　い	0.1	1.4	1.3	1.0
重　　い (①+②)	99.5	89.3	90.0	93.0
重くない (③+④)	0.5	10.7	10.0	7.0
合　　計	100.0	100.0	100.0	100.0

## 切実な父母の声

—アンケートの中から—  
(2008年度：記述部分より抜粋)

### 学費・家計・私大助成

●学費を気にせず勉強に打ち込めるように  
勉強したい子には、学費等を気にせず勉強に打ち込めるように私大の助成金を増やしてほしいものです。国公立大学との差があまりにも大きすぎるように思います。(中央大学)

●私大助成金はぜひ増額してほしい  
大学の学費の負担は重く感じます。4年間は他のもので節約しなければと考えています。しかしながら、大学に進学させたからには、充実した教育内容と教育環境の中で学ばせたいという願いもあります。そのためには、予算が必要です。私大助成金はぜひ増額してほしいです。(中央大学)

●家計に余裕はありません  
入学以来、娘は朝夕のラッシュにもまれ往復4時間弱の通学に耐え、勉強・サークル活動・バイトに頑張っています。しかし、やはり自宅通学は困難ということで、後期より下宿することになりました。これは我が家にとって想定外の事態で、来年度は弟も大学進学しますし、家計に余裕はありません。私大助成金や手厚い奨学金の支給を切に願います。(早稲田大学)

●収入が10年前よりかなり減ってしまった  
教育費の負担が非常に重い。今度は子ども保険で費用を準備できたが、次年度以降は奨学金とアルバイトで払いきれぬかどうか厳しい状況です。収入が10年前よりかなり減ってしまったので、下の子を進学させるのは無理と考えています。(日本大学)

●大学入学が親の収入で決まるのは悲しい現実  
余裕があれば昼間に通わせてあげたかったのですが、収入が少なくムリでした。奨学金が通らなければ、さらに負担が増大と思われます。勉強したい意欲があっても大学入学が親の収入で決まってしまうのは悲しい現実です。(工学院大学)

●6年制の大学 仕送りが継続できるか心配  
6年制の大学で、この先3年後、4年後は…想像が付かないです。学費を含め仕送りが継続できるか心配です。第2子も6年制を希望しているので、家計の負担は重いです。国からの助成の増額が必要だと思います。(明治薬科大学)

●私大生に必要な費用 家計の負担重く  
私立大学の学費、自宅外からの通学に必要な費用など、子ども一人にかかる金額はかなり高額で、家庭の負担は大きいのが我が家の現状です。家庭の経済的負担の軽減になるような政策を是非お願いしたいと思います。子どもたちがもっと良い教育環境のもとで学べるよう願っています。(明治薬科大学)

●教育費の助成は必要、絶対に必要です  
充実した大学生活の様です。ただ学費が高いので家計的に大変苦しいのが実情です。高校二年制の娘もおりますので、教育費は我が家にとって一番の心配事です。教育費の助成は必要、絶対に必要です。教育は皆受ける権利があると思いますし、できる限り受けさせてやりたいです。(武蔵野美術大学)

●母子家庭 大学の入学は不可能な経済力だが…  
子どもは高1の時から念願だった大学に現役で合格し、東京で暮らしております。うちは母子家庭で、しかも東京の大学に入ることは毛頭不可能な経済力でありませぬ。しかし、幸か不幸か合格した娘をみると、(途中

で通えなくなるかもしれませんが) 努力してつかんだものをお金のためだけににつぶすのはあまりにもかわいそうで、どこまでやれるか分かりませんが、頑張って応援しています。本当に志を高く持っても、結局お金が無ければ何もしてやれません。そんなご家庭は私だけではないと思います。負担が少しでも軽くなれば幸いです。(武蔵野美術大学)

#### ●家賃、生活費、バイトできず厳しい

家賃、生活費以外にも、部活の遠征費等がかかり、バイトもできないのでかなり厳しいです。直接助成をしていただければ本当に助かります。(国際武道大学)

#### ●親は預金の取り崩しや生命保険を解約して学費へ

私大の中でも医学部はかなり学費がかかるうえ、部活に入り遠征費等にも出費がかさみます。アルバイトは月に1~2回位しかできないため、親は預金の取り崩しや生命保険の解約などして学費にあてています。政府は、私大への補助率を上げ学生が安心して勉学にはげめるよう目を向けて欲しいです。(東邦大学)

#### ●学費以外の通勤費等もバカにできない出費

子ども2人が私立大学に通学しています。これほど経費がかかるとは…、想像以上でした。加えて、最近の物価高、賃金カットもひびいています。学費以外の通勤費等もバカにできない出費です。大学生がいるうち私たち親は病気にだけはならないようにしなければと思っています。親が働けなくなったら…と思うとゾーッとします。(獨協大学)

### 不況・病気・老後の不安

#### ●父親はリストラで早期退職

父親はリストラで早期退職。50歳代後半に入り再就職のあて無し。上の子どもは大学3年生で大学院への進学希望。下の子どもは今春大学入学で、6年間の学生生活が始まったばかり。母親の公務員としての収入をはるかに上回る支出が続く状態です。(麻布大学)

#### ●夫が病死し私のパートと遺族年金収入で生活

夫が一昨年病死し私一人のパートと遺族年金の収入で

生活しています。各家庭の収入に応じて助成金が直接いただければ助かります。(獨協大学)

#### ●病気で倒れた時の不安

私の家は母子家庭です。そういう家庭を対象にした授業料の減額、寮のあっせん等があればとても助かります。現実的に今、私が病気などで倒れた時の子どもの生活費等を考えると不安です。(早稲田大学)

#### ●家計は毎月火の車

母親はパートをして仕送りしています。4~6月はいろいろ出費があるようで「お金がない。困った」との電話がたびたびあり、家計は毎月火の車です。(中央大学)

#### ●親自身の老後の費用が心配

家計に占める教育費の負担が大きいため、親自身の老後の費用が心配です。私大助成金を増やしてほしいと思います。(工学院大学)

#### ●定年後の生活費の仕送り、学費の納入など不安

子どもの在学中に夫が定年を迎えるため、定年後の生活費の仕送り、学費の納入など不安を抱えています。国からの私大生への助成を更に多くして欲しいと願っています。(武蔵野美術大学)

#### ●病気の主人と年寄りをかかえ収入も少なく

4年分の学費のみは、なんとか捻出できるかもしれないが、病気の主人と年寄りをかかえているので収入も少なく、ゼミの研修等が多くあるとその費用を工面できるか心配。子どもにはアルバイトすることを前提にしていたが、学業に支障をきたすようでは困るので(留年したら通わせること自体がムリになるので)両立させることの難しさを感じる。(和光大学)

### 奨学金・教育費減税

#### ●不景気な時代で卒業後の返済を心配

大変な思いで奨学金の手続きをし受けることができました。不景気な時代で卒業後の返済ができるか心配です。部活動中心なので、バイトを強要できず生活面の負担が大きいと思います。無利子奨学金の受給額にも

っと高いものがあればと思います。(早稲田大学)

●奨学金がなければ、授業料を払うことができない  
奨学金の借入が受けられなければ、まったくと言って  
大学への授業料を払うことができないのが現状でした。  
有り難く思う反面、卒業した後の返済を思うときびし  
く思います。国の宝としての大学生へ援助を期待しま  
す。(中央大学)

●無利子奨学金を拡大してほしい  
子どもが私立大学を希望したとき、一番気になったの  
は経済的負担が大きいことです。無利子奨学金の拡大  
はしてほしいものです。直接助成制度が実現されるこ  
とを強く希望します。(明治大学)

●利子がつくので借りるのを断念  
奨学金を借りたくても、利子がつくので借りるのを断  
念しました。今年、父親が退職し、母親の給料で学費  
を出すのはとても苦しいです。利子を払わず、借りら  
れる範囲を広げてください。(武蔵野美術大学)

●就職して500万円程の奨学金を返してゆけるのか  
奨学金をうけてもはたして就職して500万円程の金額  
を返してゆけるのかと心配になります。無利子で200  
万円ほどなら可能と思います。助成金がたくさん出れ  
ば、返済もらくになり、学生のアルバイトも少なくな  
り勉強に集中できると思います。(東京経済大学)

●入学後、ダメといわれては進路に影響する  
奨学金の受け入れが入学する前に分からないのは、と  
ても不安です。入学後、ダメといわれても、それをあ  
てにしているものにとっては、今後学校に行けなくな  
ることあるのではないのでしょうか。(国際武道大学)

●利子部分だけでも免除していただきたい  
無利子奨学金の貸与人数を増やしてください。家庭の  
事情で奨学金を借りる学生が、卒業後、多額の返済を  
するのは大変です。利子部分だけでも免除していただ  
きたいと切に願います。(明治薬科大学)

●年収に対する限度枠を広げて  
日本学性支援機構の無利子奨学金の年収に対する限度  
枠を広げて、多くの人が借りられるようにしてほしい。  
(作新学院大学)

●私大医学生 合格で必ず受けられることの確約を  
私大医学生の奨学金制度は、合否判明以前に、合格し  
た場合必ず受けられることの確約を事前にもらいたい。  
そうでないと入学後不安でたまりません。医学生には  
特別な配慮を願います。(東邦大学)

## 学生生活・アルバイト

●パソコンやインターネット接続は必需品  
冷蔵庫や電気釜、プリンターは知り合いの卒業生から  
譲り受け助かりましたが、今やパソコンやインターネ  
ット接続は大学生活の必需品となっています。これが  
なければ授業がまともに受けられないと言っても良い  
くらいです。親の世代にはなかった負担を感じます。  
(中央大学)

●新聞奨学生としてセンターでお世話に  
新聞奨学生としてセンターでお世話になっております。  
お給料を頂きながら自分で生活しているので、生活費  
としての仕送りはありません。仕事と勉強を両立して、  
4年間頑張っしてほしいと思います。(中央大学)

●体育会クラブのため大学から近いところに  
体育会クラブに入っていますので、大学から近いとこ  
ろ(自転車通勤できる距離)と限られています。大  
学の近辺は家賃が高いため負担が大きい。家庭のやり  
くりや定期預金の解約などでのしのごうと考えています。  
直接助成制度があればありがたい。(明治大学)

●アルバイト 部活があるためできず  
アルバイトができる見込みだったが、部活があるため  
できず。その分の負担が親にかかっています。奨学金  
もおりていますが、アパートなので家のローンもあり  
苦しい状態です。(国際武道大学)

●生活のためバイト、学業との両立が心配  
生活費を稼ぐためにバイトをしています。学業との両  
立が心配です。(獨協大学)

## 政治に要望

### ●優遇制度を大学生をかかえる家庭にも

教育費は余りに高すぎると思います。我が家のようなサラリーマン家庭では、夫の仕事の責任は増えるのに給料が上がらず、源泉徴収で税金は確実に取られていくのに何の手当もない。小さい子どものいる家庭には、医療費免除などがある。こういう優遇制度を、特に大学生をかかえる家庭にも考えてほしい。(中央大学)

### ●誰もが平等に教育を受けられる健全な社会に

日本政府は高等教育に対して「受益者負担」という考え方だそうで、世界の流れから見てもそれは本当におかしいと思います。軍事(防衛)費に対しては金に糸目を付けず、アメリカに対して思いやり予算まで出し…。誰もが平等に教育を受けられる健全な社会になってほしいです。(明治大学)

### ●所得税などで税金の軽減をしてほしい

子どもは工学部なので、学費が文系に比べてさらに高い。また、もう一人大学生がいるので、1年の支出は年収を上回っています。私大助成も必要ですが、所得税などで税金の軽減をしてほしい。(明治大学)

### ●収入が少ない家庭に「直接助成制度」を望む

家庭の収入が少ないと言う理由で、子どもを大学へ進学させないわけにはいきません。収入が少ない家庭に対する「直接助成制度」を望みます。(日本大学)

### ●少子化問題化は教育費等の負担が影響

少子化が問題化されているのは、子どもにかかる教育費等の負担がとても大きいからだと思います。税金等々の負担も考えながら国は子どもを持つ親のことを考えて欲しいと思います。(工学院大学)

### ●教育に対しての家計の負担が大きすぎる

日本では教育に対しての家計の負担が大きすぎると思います。このため少子化の傾向も当然に思います。私大助成の増額を切に希望します。(国際武道大学)

### ●非課税家庭には授業料減免の補助を

高校までと同様に、非課税家庭には授業料の減免にあたる補助があれば、あるいは成績に応じて、毎月学習費として1万円程度でも本人に支給されると助かります。勉学に専念しているものにとっては、アルバイトをしている時間はありません。(武蔵野美術大学)

### ●特に医療系の大学の負担は大きい

国公立と比較して教育費の負担が大きすぎると思います。特に医療系の大学の負担は大きく、このままでは将来、医療や福祉に従事する人材が確保できるのか不安にもなります。国の助成を切にお願いしたいです。(麻布大学)

### ●学業と医療に専念するために

私立医大に進学しました。卒業後、医師全体に地域医療の義務づけをして、入学金を減額すべきと思います。税金は国民の命のために使われるべきと思います。そうすれば子どもも教育費の事を考えずに学業と医療に専念できます。(東邦大学)

### ●国が教育に投資して優秀な人材を多く排出しよう

教育費の負担が非常に重い。資源の少ない我が国なのに、何故もっと国が教育に投資して優秀な人材を多く排出しようとならないのか?国公立も私立も親の負担は同じになるよう希望する。(獨協大学)

### ●年収格差が教育水準の格差に比例してはならない

高等教育のレベルが下がってきていると報道されている今日、将来の日本を形成していく学生が十分な教育を受けていくためにも、助成は必要条件ではないかと考えます。また、親の年収格差が子どもの教育水準の格差に比例してはならないと思います。全ての学生が、同じ環境下で教育を受けさせてやりたい。それが将来の日本の指標の根源をなすからです。(和光大学)